

3

Once upon a time, there was a poor young man.

One day, the young man was praying in front of a small shrine in a mountain.

"God, please! I'm very poor and I haven't been able to get enough food lately. Could I please get even a little bit of food everyday!?"

And his wish seemed to reach God as the young man heard a mysterious voice.

"I'll tell you this: you carefully keep the very first thing you will get on your way back from here. Then, that thing will bring you good fortune."

After hearing that voice, the young man said thank you to God and went back home in delight.



5

When the young man got to the foot of the mountain, he tripped over a rock sticking out into the road.

After getting up, he found himself holding something in his hand.

The thing in his hand was a single straw.

"Hmmm, I'm not sure if a small thing like this will really bring me good fortune."

Although the young man tilted his head in doubt, he believed in God's words and kept walking back home with the straw in his hand.



むかし むかし、あるところに、
ひとりの まずしい わかものが いました。
あるひ わかものは、やまの なかにある
ちいさな ほこらで、おいのりを していました。

「かみさま、おねがいします！おれは びんぼうで、
このところ ろくに めしを くてない。
どうか まいにち、ほんのすこしで いいから、
くいものに ありつけるように してください！」

すると その いのりが かみさまに とどいたのか、
わかものの みみに ふしぎなこえが きこえてきました。

『おまえに いいことを おしえてやろう。
ここからの かえりみちで、いちばんさいしょに
てにしたものを、たいせつにもって あるいていなさい。
それが おまえに こううんを もたらすだろう』

それをきいた わかものは、かみさまに おれいをいって、
おおよろこびで かえっていきました。



やまの ふもとまで きたとき、わかものは
みちに とびだしていた いしに つまずいて、
ころんでしまいました。

わかものが おきあがると、
いつのまにか てに なにか つかんでいました。

それは いっぽんの『わらしべ』でした。

「う～ん、こんなものが、
こううんを もたらしてくれるんか？」

わかものは くびを かしげましたが、
それでも かみさまの ことばを しんじて、
この わらしべを たいせつにもって かえりました。

